

## 1. 「次亜塩素酸水」報道について

- ・2020年5月29日に、NITEより以下の報道がありました。検証対象とされた「次亜塩素酸水」は、一般的に「電気分解法」で製造されたものを指しており、**【緩衝法】にて製造される「エヴァ水」とは有効特性が異なる製品**です。

### 「次亜塩素酸水」現時点では有効性は確認されず NITEが公表

2020年5月29日 18時49分

NITE = 製品評価技術基盤機構は新型コロナウイルスの消毒目的で利用が広がっている「次亜塩素酸水」について、現時点では有効性は確認されていないとする中間結果を公表しました。NITEでは噴霧での使用は安全性について科学的な根拠が示されていないなどとして控えるよう呼びかけています。

続きは、以下↓URL参照

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200529/k10012450841000.html>

※今後、二液法（二液混合）やイオン交換（緩衝法）も加えて検証を行うとしています。

## 2. 「電気分解法及び二液法」と「緩衝法」の違いについて

### (1) 「電気分解法及び二液法（二液混合）」

#### ①電気分解法

- NITE 検証報告参照

#### ②二液法（二液混合）・・・ 次亜塩素酸水の市場シェア約9割

- 低濃度の弱酸性次亜塩素酸しか製造することができない。
- 塩酸と混合することにより、pHを酸側に調整する。（塩素ガス発生の危険性）  
空間噴霧においても、塩素成分や塩分などが含まれている。

### (2) 「**緩衝法**」（特許取得製品：特許第5692657号）

- 次亜塩素酸塩溶液を弱酸性イオン交換体が充填された容器を通過させる工程。  
塩素ガスが発生するpH以下に低下することなく通過するため、二液法のような塩分成分や塩分が含まれておらず、不純物が極端に少なく、塩分も含まないため、安全性も高く、空間噴霧に最適。
- 空間中の塩素濃度のJIS規格で定める安全基準(0.05ppm以下)を下回っており、実験用の密閉空間で90分間噴霧し続けても基準値以下。  
そのため、敏感な人の肌荒れや違和感等のリスクも少ない。
- 効能安定性が高い。（当初PH6.5、230ppmのものを、2年半後に再測定したところ、PH6.3、90ppmの効能が残されていたことが明らかになっている。）

## 3. エヴァ水の強み

- 緩衝法による弱酸性次亜塩素酸水（エヴァ水）の強みは、効能安定性と安全性。

**『効果が長持ちし、空間噴霧しても安心』** と言えることが強みです。